

記述式の解答内容の分析からみた 日本語の複合動詞の意味推測の特徴

谷内 美智子

Characteristics of Inferring the Meaning of Japanese Compound Verbs Based on the Analysis of the Content of Answers on a Written Test

YACHI Michiko

This study investigated the characteristics of inferring the meaning of Japanese compound verbs by Japanese language learners based on their responses on a written test. Target compound verbs were categorized into four types according to the characteristics of their first verb and second verb. Participants were requested to describe the inferred meanings of the target compound verbs under following two conditions: (1) target word in isolation, and (2) target word presented within a simple or complex sentence. The inferred meanings provided by the participants were classified into three categories: “correct”, “incorrect”, and “cannot be guessed”. Then they were examined (1) whether the classification of inferred meanings varies based on the presence or absence of context, (2) whether the classification of inferred meanings differs depending on the amount of context, (3) whether the tendency of guessed meanings differs depending on the Japanese language proficiency. The results showed that [1] When compared based on the presence or absence of context, the inferred meanings vary depending on the type of compound verb, [2] the amount of context (i.e., single sentence vs. complex sentence) does not affect the classification of inferred meanings, [3] although there are some differences depending on the degree of familiarity of the single verbs, the classification of inferred meanings is less influenced by the Japanese language proficiency. These results suggest that type of inferred meanings of compound verbs is affected by the characteristics of

first verb and second verb, as well as the presence or absence of context.

1. はじめに

日本語の複合動詞は言語学的に複雑な現象であると同時に、日本語学習者にとっても学習困難な語として知られている。複合動詞が学習困難な理由として、①複合動詞自体の学習の機会の少なさ（森田 1978, 郭・徳井 2010）、②複合動詞として可能な動詞の組み合わせが複雑であること（何 2010）、③複合動詞の中で単独動詞の意味がどの程度保持されているかによって指導のポイントが異なること（永井 1996）、の三点が挙げられる。また、語彙学習は語数が膨大であることと時間的な制約から、教室で語彙に特化した指導が行われることは多くない。そのため、日本語学習者は複合動詞も含めた日本語の語彙を自律的に学ばざるを得ず、いかに効率よく自律的に語彙学習を進められるようになるかが重要であると言える。

日本語学習者が未知の複合動詞に出会った際、前項動詞と後項動詞の意味を足すストラテジー（以下、V1+V2ストラテジー）を用いることが多い（松田 2000）。しかし、複合動詞の中で単純動詞の意味がどの程度残っているかは複合動詞によって異なるうえに、単独動詞の意味がどの程度残っているのかを形態的な特徴から判断することは不可能である。ゆえに、複合動詞の意味を正確に推測するには、V1+V2ストラテジーで導き出された意味が当該の複合動詞を取り巻く文脈から得られる情報と矛盾しないかを検証し、矛盾するのであれば文脈からの情報から改めて当該の複合動詞の意味を推測することが必要となる。

複合動詞を対象にした意味推測研究では、（1）日本語習熟度、（2）前項動詞と後項動詞の単独動詞としての意味が複合動詞の中でどの程度残っているか、（3）文脈からの情報が利用できるか否か、の三点が複合動詞の意味推測の正確さに影響することが明らかとなっている（谷内 2012, 2019；谷内・小森 2009）。また、多肢選択式における複合動詞の意味推測の特徴を検討した谷内（2020）によると、日本語習熟度と前項動詞と後項動詞の単独動詞としての意味が複合動詞の中でどの程度残っているかが、多肢選択式における意味推測の特徴に影響を与えることが明らかとなっている。しかし、多肢選択式は当て推量によって解答することが可能であるため、当該の複合動詞の意味が推測できなかったというケースを検討することが難しい。そのことから、「当該の複合動詞の意味が推測できなかった」というケースも検討できる記述式において、

複合動詞の意味推測にどのような特徴があるのかを検討することも必要であると考えられる。

2. 先行研究

日本語の複合動詞は結合する語の品詞によって「N + V型」「V1 + V2型」「A + V型」「AD + V型」に分けられる。1つめの「N + V型」は名詞に動詞が付いたものを指し、動作名詞にサ変動詞「する」が付いたものも「N + V型」に含まれる。2つめの「V1 + V2型」は、ある動詞に別の動詞が付いたものを指す。3つめの「A + V型」は形容詞、形容動詞の語幹に動詞が付いたものを指し、4つめの「AD + V型」は擬態語にサ変動詞「する」が付いたものを指す（秋元 2002；益岡・田窪 1992；長嶋 1997；姫野 2001, 2005）。これらのうち「V1 + V2型」の複合動詞が最も多く、「V1 + V2型」の複合動詞の最初の動詞は「前項動詞」と呼ばれ、前項動詞に付いた動詞は「後項動詞」と呼ばれる。また、「V1 + V2型」の複合動詞は連用形の前項動詞に後項動詞が付いたものと、テ形の前項動詞に後項動詞が付いたものの二種類あるが、一般的に「複合動詞」と呼ばれるのは連用形の前項動詞に後項動詞が付いたものを指す。本研究で対象とするのは、連用形の前項動詞に後項動詞が付いた「V1 + V2型」の複合動詞である。

連用形の前項動詞に後項動詞が付いた「V1 + V2型」の複合動詞は、①寺村（1984）が提唱した前項動詞と後項動詞の意味がどの程度保持されているのかという分類、②影山（1993）による統語的複合動詞と語彙的複合動詞という「語形成」の観点からの分類、③統語的複合動詞と語彙的複合動詞のそれぞれで、単独動詞として使われるときの意味（本義）がどのような形で生かされているかという観点からの分類（姫野 1999）の3つである。

影山（1993）の分類である統語的複合動詞と語彙的複合動詞の違いは、前項動詞が後項動詞の項になるかどうかという点にある。統語的複合動詞は前項動詞が後項動詞の項になるものを指し、「読み終わる」は「読むことが終わる」、「書き始める」は「書くことを始める」、「使い慣れる」は「使うことに慣れる」に操作することができる。また、統語的複合動詞を形成する後項動詞は表1にあげた30語のみである。統語的複合動詞を形成する後項動詞の意味は、単独動詞として使われる時と同じ意味のものもあれば異なるものもある。さらに「～あぐねる」「～そびれる」「～まくる」のように、日本語学習者にはあまりなじみがないと考えられるものも含まれる。単独動詞として使われるときの意味と

は異なる後項動詞や日本語学習者にはあまりなじみがない後項動詞が含まれる場合、日本語学習者にはV1+V2ストラテジーを用いて意味を正確に推測することは困難であると考えられる。

表1 統語的複合動詞を形成する後項動詞

始動	～かける、～だす、～始める、～かかる
継続	～まくる、～続ける
完了	～終わる、～終わる、～尽くす、～きる、～通す、～抜く、～果てる
未遂	～そこなう、～損じる、～そびれる、～かねる、～遅れる、～忘れる、～残す、～誤る、～あぐねる、～そこねる
過剰行為	～過ぎる
再試行	～直す
習慣	～つける、～なれる、～飽きる
相互行為	～合う
可能	～得る

※影山 (1993)、姫野 (1999)、姫野 (2001) を参考に作成

一方の語彙的複合動詞には「押し開ける」「切り倒す」「飲み歩く」などがあり、前項動詞は後項動詞の項にはならない。語彙的複合動詞は前項動詞と後項動詞が「V1て、V2」で言い換えられるかという観点から、「主題関係複合動詞」と「アスペクト複合動詞」に分類することができる(影山 2013)。「主題関係複合動詞」はさらに「手段」「様態」「原因」「並列」の4つに分けられる。「アスペクト複合動詞」は「補文関係」と「副詞的關係」の2つに分けられる。

姫野 (1999) では、前項動詞と後項動詞を言い換えて文にすることで単独動詞として使われるときの意味がどのように生かされているかを分類している(表2)。語彙的複合動詞は(1)二つの動詞を使ってそのまま言い換えられる、(2)後項動詞をほかの言い方にする、(3)前項動詞をほかの言い方にする、(4)二つの動詞とも他の言い方にする、の4つに分けられる。さらに語彙的複合動詞の「(1)二つの動詞を使ってそのまま言い換えられる」は(a)並列関係と(b)比喩的關係に分けられ、さらに(a)並列関係は「継起」「手段・原因」「付帯状況」「並起」「類似」に分けられる。一方の統語的複合動詞は(1)二つの動詞を使ってそのまま言い換えられる、(2)後項動詞をほかの言い方にする、の2つのみである。このように統語的複合動詞よりも語彙的複合

動詞のほうが圧倒的に言い換えのパターンが多く、単独動詞として使われるときの意味がどのように生かされているかが、複合動詞の学習のしやすさやV1 + V2ストラテジーに影響すると言える。

表2 姫野（1999）の複合動詞の分類

	語彙的複合動詞	統語的複合動詞
(1) 二つの動詞を使ってそのまま言い換えられる		
(a) 並列関係	～して～する ～したり～したりする ～して、その結果すなわち～する（ことになる） 等	
継起	流れ着く→流れてから着く	【なし】
手段・原因	焼け死ぬ→焼けることにより死ぬ	【なし】
付帯状況	遊び暮らす→遊びながら暮らす	【なし】
並起	泣き叫ぶ→泣いたり叫んだりする	【なし】
類似	書き記す→書いてすなわち記す	【なし】
(b) 比喩的關係	～するようにして、～する 書き殴る→まるで殴るように乱暴に書く	【なし】
(c) 主述、補足の関係	～することが／を／に～する	
主述	あり余る→あることが余る	働き過ぎる→働くことが過ぎる（＝過度だ）
補足	出し惜しむ→出すことを惜しむ	歩き始める→歩くことを始める
(2) 後項動詞をほかの言い方にする		
	投げ込む→投げて、中に入れる	話し合う→互いに話す
(3) 前項動詞をほかの言い方にする		
	打ち切る→継続状況を途中で切る（＝終了する）	【なし】
(4) 二つの動詞とも他の言い方にしなければならない		
	落ち着く	【なし】

※姫野（1999：19-22）をもとに作成

日本語学習者を対象にした複合動詞の意味推測研究に、平山（2007）、谷内（2012, 2019, 2020, 2022）、谷内・小森（2009）がある。これらの研究では、①意味推測時の文脈量、②日本語習熟度、③前項動詞と後項動詞の単独動詞とし

ての意味がどのように生かされているか、の三点が複合動詞の意味推測に影響することが明らかとなっている。

平山（2007）では姫野（1999）を参考に統語的複合動詞と語彙的複合動詞を分類し、複合動詞の意味理解の違いを多肢選択式で比較した。その結果、①前項動詞、後項動詞のもとになっている単独動詞の意味がどの程度残っているかが、複合動詞の意味理解に影響すること、②語形成パターンに沿った正しい解釈ができるようになるにつれて、語形成パターンによる誤解釈も増える段階があることが明らかとなっている。

谷内（2012, 2019, 2022）、谷内・小森（2009）では、統語的複合動詞（谷内 2012, 2019）、V1 + V2ストラテジーでは正確に意味を推測することが難しい語彙的複合動詞（谷内 2022；谷内・小森 2009）を対象に、多肢選択式と記述式のそれぞれの解答形式における複合動詞の意味推測の正確さを検討した。その結果、①どちらの解答形式においても日本語習熟度が高いほうが正確に意味を推測でき、前項動詞と後項動詞のもとになっている単独動詞の意味がどの程度複合動詞の中で残っているかが意味推測の正確さに影響すること、②解答形式によって正確な意味推測に必要な文脈量が異なることが明らかとなった。

谷内（2020）では多肢選択式において学習者が推測する複合動詞の意味がどのように変わるかを、前項動詞と後項動詞の単独動詞としての意味がどの程度残っているか、意味推測時の文脈量、日本語習熟度のそれぞれの関係から検討した。その結果、日本語習熟度と前項動詞と後項動詞の単独動詞としての意味がどの程度残っているかが、学習者が推測する複合動詞の意味に影響することが明らかとなった。

このように多肢選択式、記述式という解答形式に関係なく日本語習熟度と前項動詞と後項動詞のもとになっている単独動詞の意味がどの程度複合動詞の中で残っているかが意味推測の正確さに影響することが明らかになっている。また、文脈量については、解答形式によって正確な意味推測に必要な文脈量が異なることが示されている。一方、学習者が推測する複合動詞の意味の傾向については多肢選択式でしか検討がなされていない。しかし、多肢選択式は複合動詞の意味が推測できなくてもどれか一つ選択肢を選べば当て推量で解答することも可能である（森 2004）。ゆえに、「意味を推測すること自体ができなかった」のか「意味を推測したものの、推測した意味が誤っていた」のかの区別は多肢選択式では難しい。そのことから、記述式の解答形式において学習者が記述した意味にどのような特徴があるのか、また、日本語習熟度や意味推測時の

文脈量によって記述した意味がどのように変わるのかを検討することで、複合動詞の意味推測の特徴がより明確になるものと考えられる。

3. 研究課題

これまで行われてきた複合動詞の意味推測研究では、意味推測時の文脈量、日本語習熟度、前項動詞と後項動詞の単独動詞としての意味がどの程度残っているかの三点が、意味推測の正確さにどのように影響するかという観点から研究が行われてきた。一方、意味推測の際の条件によって推測される意味がどのように変わるかについては多肢選択式でのみ検討がなされており、記述式ではこれまでに検討がされていない。記述式では記述された内容から、「意味を推測すること自体ができなかった」のか「意味を推測したものの、推測した意味が誤っていた」のかを区別することが可能である。このことを踏まえ、本研究では以下の研究課題を設定する。

記述式において学習者が推測する複合動詞の意味は、

研究課題1：意味推測時の文脈量によってどのように変わるか。また、複合動詞の種類によって違いはあるか。

研究課題2：日本語習熟度によってどのように変わるか。また、複合動詞の種類によって違いはあるか。

4. 研究方法

4.1 実験計画

本研究では4つの要因を設定した。第1の要因は文脈の有無（被験者内要因）で、①調査対象語のみを提示する「単独意味推測条件」、②調査対象語を一文内で提示する「文脈内意味推測条件」の2水準である。第2の要因は文脈量（被験者間要因）で、(1)調査対象語を単文内で提示する「単文推測」、(2)調査対象語を複文内で提示する「複文推測」の2水準である。第3の要因は日本語習熟度（被験者間要因）で上位、中位、下位の3水準である。第4の要因は複合動詞の種類（被験者内要因）で、[1]前項動詞、後項動詞ともに日本語能力試験の出題基準（国際交流基金・日本国際教育支援協会 2002 以下『出題基準』）の3級か4級の動詞で、後項動詞の意味が単独動詞として使われるときの第一義と同じ統語的複合動詞（統語1）、[2]前項動詞、後項動詞ともに『出題基準』の3級か4級の動詞で、後項動詞の意味が単独動詞と

して使われるときの第一義とは異なる統語的複合動詞（統語2）、[3] 前項動詞は『出題基準』の3級か4級の動詞で、後項動詞が『出題基準』の1級か『出題基準』には掲載されていない級外の動詞で構成されている統語的複合動詞（統語3）、[4] 『出題基準』に掲載されておらず、前項動詞と後項動詞が3級か4級の動詞で構成されている語彙的複合動詞（語彙的複合）、の4水準である。なお、研究課題1「記述式において学習者は推測する複合動詞の意味は、意味推測時の文脈量によってどのように変わるか」に対応する要因は「文脈の有無」と「文脈量」である。「文脈の有無」と「文脈量」から研究課題1について検討する。

4.2 調査対象者

本研究の調査対象者は谷内（2019, 2022）と同一で、モンゴル国国内の大学に在籍する中上級レベルの日本語学習者を対象とした¹。全員日本語を主専攻か副専攻として学んでおり、母語はモンゴル語である。モンゴル国国内で使われているモンゴル語には表記にキリル文字が採用されている（ウラムバヤル2011）。そのことから、日常生活で漢字に触れることは非常に少ないと考えられる。

本研究では、調査対象者121名のうち谷内（2019, 2022）での分析対象者と同一の64名を分析対象とした。谷内（2019, 2022）での分析対象者の条件は① SPOT_A、SPOT（ver. D. E）²、後述の単独意味推測テスト、文脈内意味推測テストのすべてを受けていること、② SPOT_Aの得点が25点以上であること、の二つである。これらの条件に該当する64名を、谷内（2019, 2022）と同様に文脈量要因で二群に、日本語習熟度要因で三群に分けた。文脈量要因については文脈内意味推測テストの冊子をランダムに配布することで、単文推測群と複文推測群に分けた。日本語習熟度要因についてはSPOT_Aの得点を用いて上位群、中位群、下位群に分けた。具体的にはSPOT_Aの平均値+0.5標準偏差（42）以上を上位群、平均値-0.5標準偏差（33）以上から+0.5標準偏差（42）未満を中位群、平均値-0.5標準偏差（33）未満を下位群として弁別した（表3）。

表3 分析対象者のSPOT_Aの得点

		平均値	標準偏差	最小値	最大値	N
単文 推測群	上位	47.88	4.26	42.00	54.00	8
	中位	35.78	2.22	33.00	40.00	9
	下位	27.27	1.62	25.00	30.00	11
	単文推測群 全体	35.89	8.94	25.00	54.00	28
複文 推測群	上位	47.50	4.32	42.00	57.00	12
	中位	36.00	3.24	33.00	41.00	13
	下位	29.36	1.96	26.00	32.00	11
	複文推測群 全体	37.81	8.15	26.00	57.00	36
全体		36.97	8.49	25.00	57.00	64

※65点満点

単文推測群と複文推測群、上位群、中位群、下位群SPOT_Aの得点に差があるかを二要因の分散分析で確認した。独立変数は文脈量（単文推測と複文推測の二水準）と日本語習熟度要因（上位、中位、下位の三水準）で、いずれも被験者間要因である。従属変数はSPOT_Aの得点である。分析の結果、交互作用（ $[F(2, 58) = .898, n.s.]$ ）と文脈量要因の主効果は有意ではなく（ $[F(1, 58) = .670, n.s.]$ ）、日本語習熟度要因の主効果は有意であった（ $[F(2, 58) = 199.958, p < .01]$ ）。日本語習熟度要因の主効果が有意であったため多重比較としてフィッシャーのLSD検定を行ったところ、上位群と中位群、上位群と下位群、中位群と下位群のいずれの間も有意であった。この結果から単文推測群と複文推測群の間に日本語習熟度の差はないが、上位群、中位群、下位群の間には日本語習熟度の差があると判断した。

4.3 調査対象語

本研究の調査対象語は、谷内・小森（2009）での調査対象語のうち前項動詞と後項動詞が『出題基準』の3級と4級の語で構成されている語彙的複合動詞10語、および谷内（2019）で調査対象語となった統語的複合動詞46語の合計56語である。調査対象語の選定にあたっては、影山（1993）や姫野（1999）などを参照し、統語的複合動詞は前項動詞と後項動詞の特徴から「統語1」「統語2」「統語3」に分類した。本研究の調査対象語を表4に示す。

表4 本研究の調査対象語

前項動詞	3級か4級の動詞	
統語1の後項動詞 (17語)	単独動詞としての出題基準の級は3級か4級で、複合動詞の中での後項動詞の意味が単独動詞のときの第一義と同じ。	歩き始める、登り始める、働き始める、歌い終わる、書き終わる、やり終わる、買い忘れる、かけ忘れる、聞き慣れる、食べ慣れる、履き慣れる、出遅れる、逃げ遅れる、乗り遅れる、鳴り続ける、走り続ける、読み続ける
統語2の後項動詞 (19語)	単独動詞としての出題基準の級は3級か4級で、複合動詞の中での後項動詞の意味は、単独動詞の派生義。	洗い直す、考え直す、作り直す、教え合う、出し合う、褒め合う、踊り出す、降り出す、笑い出す、泳ぎ切る、使い切る、読み切る、書きかける、食べかける、消えかかる、死にかかる、食べつける、飲みつける、履きつける
統語3の後項動詞 (10語)	単独動詞としての語彙級が1級か級外。	言い損なう、言い損じる、書き損じる、考えあぐねる、探しあぐねる、聞き誤る、踏み誤る、聞き損ねる、渡し損ねる、知り尽くす
語彙的複合動詞 (10語)	『出題基準』に掲載されておらず、単独動詞としての前項動詞と後項動詞の級が3級か4級の語。	居合わせる、言い寄る、言い渡す、歌い上げる、置き忘れる、吸い取る、泣き落とす、飲み歩く、持ち直す、寄り掛かる

4.4 調査材料

本研究で用いた調査材料は「単独意味推測テスト」と「文脈内意味推測テスト」である。単独意味推測テストでは調査対象語のみを提示した。文脈内意味推測テストは単文推測群向けと複文推測群向けの2つある。単文推測群向けの文脈内意味推測テストでは調査対象語を共起語とともに提示し、複文推測群向けの文脈内意味推測テストでは、調査対象語を共起語および意味推測を促すと考えられる表現とともに提示した。文脈内意味推測テストの提示文は『現代書き言葉均衡コーパス少納言』や『格フレーム検索』などのコーパスで用例を参考にしながら作成し、『出題基準』の2級以上の単語にはモンゴル語での語注を付した。さらに表5に示したように、単独意味推測テスト、文脈内意味推測テストの両方で、使用されている漢字にはすべてルビを付した。また、単独意味推測テスト、文脈内意味推測テストともに調査対象者の母語であるモンゴル語で推測した意味を記入してもらった。そのことから文脈内意味推測テストに

においては順序効果を排除するため、提示順を入れ替えた冊子を10種類用意した(表6)。

表5 本研究での提示文の例

	意味推測条件	提示文	モンゴル語の語注	
統語1	単独	かお 書き終わる	原稿：эх ноорог, төсөл 報告書：тайлан	
	文脈内	単文		げんこう か お 原稿を書き終わった。
		複文		げんこう か お やっとこの原稿を書き終わったが、 つぎ ほうこくしょ か 次はこの報告書を書かなければなら ない。
統語2	単独	あら なお 洗い直す		
	文脈内	単文		シャツを洗い直した。
		複文		いっかいあら 一回洗っただけではきれいにならな かったので、シャツを洗い直した。
統語3	単独	ふ あやま 踏み誤る	ブレーキ：тоормос アクセル：хурдасгуур, хааз	
	文脈内	単文		ブレーキとアクセルを踏み誤った。
		複文		こうつうじ こ この交通事故は、ブレーキとアクセ ルを踏み誤ったのが原因で起きた。
語彙的複合	単独	い あ 居合わせる	偶然：санамсаргүй 現場：газар дээр нь, тухайн газар	
	文脈内	単文		こうつうじ こ げんば い あ 交通事故の現場に居合わせた。
		複文		みち ある 道を歩いていたたら、偶然、交通事故 げんば い あ の現場に居合わせてしまった。

表6 文脈内意味推測テストの冊子の構成

テスト① (単文)	テスト② (複文)	テスト③ (単文)	テスト④ (複文)	テスト⑤ (単文)
統語 3	統語 3	ダミー	ダミー	統語 2
ダミー	ダミー	統語 2	統語 2	統語 1
統語 2	統語 2	統語 1	統語 1	語彙的複合
統語 1	統語 1	語彙的複合	語彙的複合	統語 3
語彙的複合	語彙的複合	統語 3	統語 3	ダミー

テスト⑥ (複文)	テスト⑦ (単文)	テスト⑧ (複文)	テスト⑨ (単文)	テスト⑩ (複文)
統語 2	統語 1	統語 1	語彙的複合	語彙的複合
統語 1	語彙的複合	語彙的複合	統語 3	統語 3
語彙的複合	統語 3	統語 3	ダミー	ダミー
統語 3	ダミー	ダミー	統語 2	統語 2
ダミー	統語 2	統語 2	統語 1	統語 1

4.5 調査手続き

調査は2010年10月に、授業時間を利用して実施した。初日にSPOT_Aと単独意味推測テストを実施し、その数日後に文脈内意味推測テストを実施した。文脈内意味推測テストの冊子は10種類をランダムに配布した。そして文脈内意味推測テスト実施の数日後にSPOT (ver. D, E)を実施した。単独意味推測テストと文脈内意味推測テストの実施の際、①調査対象語の意味をモンゴル語で書くこと、②辞書は使用不可、③前のページに戻ってはならないこと、以上の三点をテスト冊子の中でモンゴル語で指示した。

4.6 分析手続き

分析にあたり、まず調査対象者がモンゴル語で記述した意味を、モンゴル語を母語とする日本語教師に翻訳してもらった。日本語への翻訳の後、「正答」「誤答」「推測不可」(未記入、もしくはモンゴル語で「わからない」と記述)の3つの解答カテゴリーに分類した。分類は10年以上の教授経験と日本語教育の修士号を持つ日本語教師2名と筆者の合計3名で行い、3名中2名以上が一致した分類を採用した。3名とも分類が一致しないものは協議のうえ分類を決

定した。そして分類の後、単独意味推測条件と文脈内意味推測条件での解答カテゴリーが同じか否かを「推測パターン」(表7)という形で集計し、該当する人数が最も多い推測パターン(以下、最多推測パターン)がどれなのかを、調査対象語ごとに整理した。

表7 推測パターンの一覧

単独意味推測条件での 解答カテゴリー	⇒	文脈内意味推測条件での 解答カテゴリー
推測不可	⇒	推測不可
		正答
		誤答
正答	⇒	推測不可
		正答
		誤答
誤答	⇒	推測不可
		正答
		誤答

5. 結果と考察

ここでは研究課題ごとに最多推測パターンの特徴を説明する。なお、調査対象語ごとの各推測パターンに該当した人数の一覧は稿末の資料にまとめた。

5.1 研究課題1：学習者が推測する複合動詞の意味は意味推測時の文脈量によってどのように変わるか。また、複合動詞の種類によって違いはあるか

研究課題1「学習者が推測する複合動詞の意味は意味推測時の文脈量によってどのように変わるか。また、複合動詞の種類によって違いはあるか」の結果を見ていく。表8は調査対象語ごとの単文推測群全体、複文推測群全体の最多推測パターンが同じか否かを示したものである。

表8 単文推測群全体、複文推測群全体の最多推測パターン

統語1	同じ (13語)	【正答⇒正答】 歩き始める、登り始める、働き始める、歌い終わる、書き終わる、やり終わる、買い忘れる、読み続ける
		【誤答⇒誤答】 聞き慣れる、出遅れる、逃げ遅れる、乗り遅れる
		【推測不可⇒誤答】 履き慣れる
	異なる (4語)	【単文推測群：誤答⇒誤答 複文推測群：誤答⇒正答】 かけ忘れる
		【単文推測群：誤答⇒誤答 複文推測群：正答⇒正答】 食べ慣れる
【単文推測群：正答⇒正答 複文推測群：推測不可⇒誤答】 鳴り続ける		
【単文推測群：正答⇒誤答 複文推測群：正答⇒正答】 走り続ける		
統語2	同じ (15語)	【誤答⇒誤答】 考え直す、作り直す、教え合う、出し合う、降り出す、笑い出す、泳ぎ切る、使い切る、書きかける、食べかける、食べつける、飲みつける
		【推測不可⇒誤答】 褒め合う、踊り出す、履きつける
	異なる (4語)	【単文推測群：誤答⇒誤答 複文推測群：誤答⇒正答】 洗い直す、読み切る [*] 、死にかかる
		【単文推測群：誤答⇒誤答 複文推測群：正答⇒正答】 読み切る [*]
		【単文推測群：推測不可⇒誤答 複文推測群：誤答⇒誤答】 消えかかる
統語3	同じ (9語)	【誤答⇒誤答】 考えあぐねる、聞き誤る
		【推測不可⇒誤答】 言い損なう、書き損じる、探しあぐねる、踏み誤る、聞き損ねる [*] 、渡し損ねる、知り尽くす
		【推測不可⇒正答】 聞き損ねる [*]
	異なる (1語)	【単文推測群：誤答⇒誤答 複文推測群：推測不可⇒誤答】 言い損じる
語彙的複合	同じ (8語)	【誤答⇒誤答】 言い寄る、言い渡す、歌い上げる、泣き落とす、飲み歩く、持ち直す
		【推測不可⇒誤答】 居合わせる、寄り掛かる
	異なる (2語)	【単文推測群：誤答⇒誤答 複文推測群：正答⇒正答】 置き忘れる
		【単文推測群：誤答⇒誤答 複文推測群：推測不可⇒誤答】 吸い取る

※を付した語はその推測パターンに該当した人数が同数であったことを示す。

単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが同じ語は、統語 1 は 17 語中 13 語 (76.5%)、統語 2 は 19 語中 15 語 (78.9%)、統語 3 は 10 語中 9 語 (90%)、語彙的複合は 10 語中 8 語 (80%) であった。一方、単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが異なる語は、統語 1 は 17 語中 4 語 (23.5%)、統語 2 は 19 語中 4 語 (21.1%)、統語 3 は 10 語中 1 語 (10%)、語彙的複合は 10 語中 2 語 (20%) であった。単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが同じ語は統語 1、統語 2、統語 3、語彙的複合のすべてで、それぞれの調査対象語の 7 割以上を占めている。

「文脈の有無」という点から、単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが同じ語の解答カテゴリーの種類をしてみる。解答カテゴリーの種類は統語 1 では「正答⇒正答」が 8 語、「誤答⇒誤答」が 4 語、「推測不可⇒誤答」が 1 語であった。統語 2 の場合、「誤答⇒誤答」が 12 語、「推測不可⇒誤答」が 3 語であった。統語 3 では「誤答⇒誤答」が 2 語、「推測不可⇒誤答」が 7 語、「推測不可⇒正答」が 1 語であった³。語彙的複合では「誤答⇒誤答」が 6 語、「推測不可⇒誤答」が 2 語であった。このように、統語 1、統語 2、語彙的複合では文脈の有無に関係なく解答カテゴリーは同じ語が多く、文脈の有無で解答カテゴリーが変わる語は少ない。一方の統語 3 は文脈の有無に関係なく解答カテゴリーは同じ語が少なく、文脈の有無で解答カテゴリーが変わる語のほうが多い。

次に、単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが異なる語について見てみたい。統語 1 の最多推測パターンは、単文推測群が「誤答⇒誤答」で複文推測群が「誤答⇒正答」、単文推測群が「誤答⇒誤答」で複文推測群が「正答⇒正答」、単文推測群が「正答⇒正答」で複文推測群が「推測不可⇒誤答」、単文推測群が「正答⇒誤答」で複文推測群が「正答⇒正答」の 4 つで、それぞれ 1 語ずつ該当した。

統語 2 では最多推測パターンは 3 種類あった。1 つめは単文推測群が「誤答⇒誤答」、複文推測群が「誤答⇒正答」で 3 語が該当した。2 つめは単文推測群が「誤答⇒誤答」、複文推測群が「正答⇒正答」で 1 語が該当した。3 つめは単文推測群が「推測不可⇒誤答」、複文推測群が「誤答⇒誤答」で 1 語が該当した。

統語 3 の最多推測パターンは 1 種類のみで、単文推測群が「誤答⇒誤答」、複文推測群が「推測不可⇒誤答」で 1 語が該当した。語彙的複合は 2 種類の最多推測パターンが見られた。1 つめは単文推測群が「誤答⇒誤答」、複文推測群が「正答⇒正答」で 1 語が該当した。2 つめは単文推測群が「誤答⇒誤答」、

複文推測群が「推測不可⇒誤答」で1語が該当した。

単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが異なる語の解答カテゴリーを比較してみると、単文推測群は解答カテゴリーが文脈の有無に関係なく同じ語が9語（統語1が3語、統語2が3語、統語3が1語、語彙的複合が2語）あり、文脈の有無によって解答カテゴリーが異なる語は2語（統語1が1語、統語2が1語）しかなかった。一方の複文推測群は、解答カテゴリーが文脈の有無に関係なく同じ語が5語（統語1が2語、統語2が2語、語彙的複合が1語）あり、文脈の有無によって解答カテゴリーが変わる語は7語（統語1が2語、統語2が3語、統語3が1語、語彙的複合が1語）あった⁴。

以上の結果をまとめる。まず、本研究での調査対象語の場合、統語1、統語2、統語3、語彙的複合のすべてで単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが同じ語が多く、「単文か複文か」という文脈量では推測パターンが変わることは少ないということが明らかとなった。本研究で用いた提示文は、単文推測群向けは調査対象語を共起語とともに提示しており、複文推測群向けは調査対象語を共起語と意味推測を促すと考えられる表現とともに提示している。複文推測群の提示文は意味推測を促すと考えられる表現を含めることで、より正確な意味の推測につながることを期待していた。しかし、実際には単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが同じ語が多かったことから、複文推測群の提示文に含まれていた「意味推測を促すと考えられる表現」は、実際の意味推測にはあまり貢献していなかったと言える。このことから、単文推測群でも複文推測群でも、意味推測の際に活用した文脈からの情報に大きな違いはなかった可能性がある。

次に単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが同じ語の解答カテゴリーの種類をしてみる。統語1、統語2、語彙的複合では「文脈の有無」という点からは解答カテゴリーが同じ語のほうが多く、統語3は文脈の有無で解答カテゴリーが変わる語のほうが多かった。特に統語3では「推測不可⇒誤答」という推測パターンに該当した語が多かった。統語1、統語2、語彙的複合は、前項動詞と後項動詞のもとになっている単独動詞が『出題基準』の3級か4級の語で構成されているが、統語3は後項動詞が1級か級外の動詞で構成されている。統語1、統語2、語彙的複合の場合、前項動詞と後項動詞が調査対象者にとって既知のため、V1+V2ストラテジーを用いて意味を推測することが可能であったと考えられる。統語1は前項動詞、後項動詞の意味が単独動詞として使われるときの意味と同じであるため、文脈の有無に関係なく正確に意味を推

測できたのであろう。一方、統語2は後項動詞の意味が単独動詞の時の意味とは異なり、語彙的複合は単独動詞としての意味が前項動詞と後項動詞の中で残っているとは限らない。また、文脈からの情報が利用できたとしても正確な意味を導き出すことは難しかったために、「誤答」に分類される意味しか推測できなかったのであろう。

統語3の複合動詞は、前項動詞は『出題基準』の3級か4級の語であったが、後項動詞は1級か級外の単独動詞である。ゆえに、統語3の後項動詞は本研究の調査対象者にはなじみがなかった可能性がある。そのため、意味推測のための手がかりが前項動詞と後項動詞の意味しか利用できない条件では、統語3の複合動詞の意味を推測すること自体が難しく、「推測不可」が最も多くなったのであろう。しかし、文脈からの情報が利用可能な条件であれば、前項動詞や後項動詞の意味が分からなかったとしても、文脈からの情報を利用すれば何かしらの意味を推測することが可能となる。ただし、推測した意味が対象の複合動詞の意味を正確に表したものとなるとは限らないため、誤った意味を推測した場合は解答カテゴリーとしては「誤答」に分類される。以上のことから、統語3では「推測不可⇒誤答」が最多推測パターンとして多く見られたと考えられる。

次に、単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが異なる語について考えてみたい。単文推測群と複文推測群で最多推測パターンが異なる語は最多推測パターンが同じ語よりも数は少ない。しかし、最多推測パターンが異なる語について単文推測群と複文推測群を比較してみると、単文推測群は解答カテゴリーが文脈の有無に関係なく同じ語のほうが多く、複文推測群は文脈の有無によって解答カテゴリーが変わる語のほうが多かった。このことから、単文程度の文脈量では推測される意味は変わらず、複文程度の文脈量で推測される意味が変わる可能性があると言える。最多推測パターンの種類、複合動詞の種類によって違いがあるかという点からは、語数が少ないために一定の特徴を見出すことはできなかった。

5.2 研究課題2：学習者が推測する複合動詞の意味は日本語習熟度によってどのように変わるか。また、複合動詞の種類によって違いはあるか

研究課題2「学習者が推測する複合動詞の意味は日本語習熟度によってどのように変わるか。また、複合動詞の種類によって違いはあるか」の結果を検討

する。表9は複合動詞の種類ごとに、単文推測群、複文推測群のそれぞれにおける日本語習熟度別の最多推測パターンに該当した語数をまとめたものである。

表9 日本語習熟度別の最多推測パターンの該当語数

	意味推測条件		単文推測群			複文推測群		
	単独	⇒ 文脈内	上位	中位	下位	上位	中位	下位
統語1	推測不可	⇒ 推測不可	0	1	0	0	0	0
		⇒ 正答	0	1	0	0	1	0
		⇒ 誤答	2	2	3	1	2	5
	正答	⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0
		⇒ 正答	12	9	10	12	11	10
		⇒ 誤答	2	0	2	1	0	0
	誤答	⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0
		⇒ 正答	1	0	1	3	1	0
		⇒ 誤答	3	6	7	2	3	4
統語2	推測不可	⇒ 推測不可	1	0	0	0	0	1
		⇒ 正答	0	0	0	0	2	0
		⇒ 誤答	5	3	4	2	5	3
	正答	⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0
		⇒ 正答	1	0	0	4	0	0
		⇒ 誤答	1	0	0	0	1	0
	誤答	⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0
		⇒ 正答	0	1	0	5	2	1
		⇒ 誤答	13	17	16	11	13	15
統語3	推測不可	⇒ 推測不可	2	0	0	0	0	2
		⇒ 正答	0	0	0	0	0	1
		⇒ 誤答	7	6	9	5	8	7
	正答	⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0
		⇒ 正答	0	0	0	0	0	0
		⇒ 誤答	0	0	0	0	0	0
	誤答	⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0
		⇒ 正答	0	0	0	0	0	0
		⇒ 誤答	3	4	2	6	2	3
語彙的複合	推測不可	⇒ 推測不可	1	0	0	0	0	1
		⇒ 正答	1	0	0	0	0	0
		⇒ 誤答	1	3	4	2	2	3
	正答	⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0
		⇒ 正答	1	0	0	0	0	1
		⇒ 誤答	0	1	1	1	0	0
	誤答	⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0
		⇒ 正答	0	0	0	3	0	1
		⇒ 誤答	6	8	6	5	8	5

※ 網掛け箇所はその推測パターンに該当した語数をもっとも多いことを示す。また、最多推測パターンが複数あった語は別々にカウントした。

日本語習熟度別の最多推測パターンの該当語数を見てみると、統語1、統語2、語彙的複合は単文推測群、複文推測群それぞれにおいて、日本語習熟度に関係なく最も該当語数が多い最多推測パターンは同じであった。一方、統語3は単文推測群では日本語習熟度に関係なく最も該当語数が多い最多推測パターンが同じであったものの、複文推測群は日本語習熟度によって最も該当語数が多い最多推測パターンが異なっていた。

該当語数が最も多かった最多推測パターンの種類をしてみる。統語1では「正答⇒正答」に該当した語が最も多かった。統語2と語彙的複合は「誤答⇒誤答」に該当した語が最も多かった。統語3は、単文推測群では上位群、中位群、下位群のすべてにおいて「推測不可⇒誤答」に該当した語が最も多かった。一方の統語3の複文推測群は、上位群のみ「誤答⇒誤答」に該当した語が最も多く、中位群と下位群では「推測不可⇒誤答」に該当した語が最も多かった。

統語1、統語2、語彙的複合は単文推測群、複文推測群のそれぞれにおいて日本語習熟度に関係なく該当語数が最も多かった最多推測パターンは同じであったが、最多推測パターンの種類は異なっていた。それぞれの最多推測パターンは統語1が「正答⇒正答」、統語2と語彙的複合が「誤答⇒誤答」と異なっていたのは、前項動詞と後項動詞の意味が当該の複合動詞の中でどの程度残っているかに関係していると考えられる。統語1、統語2、語彙的複合はすべて『出題基準』の3級か4級の動詞で構成されている。統語1の複合動詞は前項動詞と後項動詞の意味が単独動詞として使われるときと同じ意味のため、V1+V2ストラテジーを用いて当該の複合動詞の意味を正確に推測できる。本研究の調査対象者にとっては『出題基準』の3級か4級の動詞は既知であると考えられるため、上位群、中位群、下位群のすべてにおいて「正答⇒正答」に該当した語が多くなったと思われる。

一方、統語2と語彙的複合は『出題基準』の3級と4級の単独動詞で構成されているものの、単独動詞としての意味が複合動詞の中で生かされているとは限らない。統語2では前項動詞は単独動詞としての意味と同じものの、後項動詞の意味は単独動詞の派生義である。また、語彙的複合は語彙化や意味の慣習化が進んでいるものを本研究では対象にしている。ゆえに、統語1とは異なり、統語2や語彙的複合はV1+V2ストラテジーで当該の複合動詞の意味を正確に推測することは難しく、V1+V2ストラテジーで当該の複合動詞の意味を推測しようとしても、結果として誤った意味が導き出されることになる。統語2と語彙的複合では前項動詞と後項動詞のもとになっている単独動詞は既知であっ

でも単独動詞としての意味が複合動詞の中で生かされているとは限らないために、上位群、中位群、下位群のすべてにおいて「誤答⇒誤答」に該当した語が多かったと考えられる。

統語3の場合、単文推測群と複文推測群で若干傾向が異なっていた。単文推測群は日本語習熟度に関係なく「推測不可⇒誤答」に該当した語数が最も多かった。複文推測群は上位群のみ「誤答⇒誤答」に該当した語数が最も多く、中位群と下位群では「推測不可⇒誤答」が多かった。複文推測群の上位群のみ「誤答⇒誤答」と異なるが、統語3はおおむね「推測不可⇒誤答」が最多推測パターンに該当する語が多いと言えるだろう。

統語3で「推測不可⇒誤答」が多かった理由について検討する。統語3は統語1、統語2、語彙的複合とは異なり、前項動詞は『出題基準』の3級か4級の単独動詞であるものの、後項動詞は『出題基準』の1級か級外の単独動詞である。本研究の調査対象者の日本語能力から考えると、『出題基準』の1級か級外の語は未知である可能性が高い。そのため、未知の単独動詞が含まれる複合動詞のみが提示された単独意味推測条件においては意味を推測すること自体が不可能だと調査対象者が判断し、未記入もしくは「わからない」という解答が多くなったと考えられる。一方、単文もしくは複文という形で調査対象語が提示されている文脈内意味推測条件では、未知の単独動詞が含まれていたとしても、文脈から得られる手がかりを用いることが可能になる。ゆえに何かしらの意味を推測することが可能になるものの、当該の複合動詞の正確な意味につながるものとは限らない。そのため、文脈内意味推測条件では「誤答」に分類される解答が多く、「推測不可⇒誤答」に該当する語が多くなったと考えられる。

日本語習熟度別に見た場合、統語3では複文推測群の上位群のみ「誤答⇒誤答」が最多推測パターンに該当した語が多かった。もし上位群に『出題基準』の1級か級外の単独動詞が既知である者が多かったとすれば、単文推測群の上位群においても「誤答⇒誤答」が最多推測パターンに該当した語が多くなると考えられる。しかし、実際には単文推測群の上位群は「推測不可⇒誤答」という最多推測パターンに該当する語が多かったことから、『出題基準』の1級か級外の単独動詞は単文推測群、複文推測群問わず上位群にとっては未知であった可能性が高い。表9の統語3における複文推測群の上位群の最多推測パターンの該当語数を見てみると、「推測不可⇒誤答」が5語、「誤答⇒誤答」が6語でその差はわずかなものである。統語3の調査対象語を増やした場合にどのような結果になるか、何かしらの形で確認する必要があるだろう。

6. まとめと今後の課題

本研究では記述式の解答形式において、日本語学習者が推測した複合動詞の意味が意味推測時の文脈量や日本語習熟度によってどのように変わるのかを検討した。まず研究課題1の文脈量については、①「単文か複文か」という文脈量では推測パターンが変わることが少ないこと、②「文脈の有無」という点からは、統語1、統語2、語彙的複合では文脈の有無に関係なく解答カテゴリーが同じ語のほうが多いが、統語3は文脈の有無で解答カテゴリーが変わる語のほうが多いこと、③統語1は「正答⇒正答」、統語2と語彙的複合は「誤答⇒誤答」、統語3は「推測不可⇒誤答」と、複合動詞の種類によって最多推測パターンが異なること、④最多推測パターンが単文推測群と複文推測群で異なる場合、単文推測群よりも複文推測群のほうが文脈の有無によって解答カテゴリーが変わる語のほうが多いこと、以上の4点が明らかとなった。研究課題2の日本語習熟度については、(1)統語1、統語2、語彙的複合は単文推測群、複文推測群それぞれにおいて日本語習熟度に関係なく最も該当語数が多い最多推測パターンが同じであるが、統語1は「正答⇒正答」、統語2と語彙的複合は「誤答⇒誤答」と最多推測パターンの種類が異なること、(2)統語3では単文推測群の上位群、中位群、下位群と複文推測群の中位群、下位群は最も該当語数が多い最多推測パターンの種類が「推測不可⇒誤答」であったが、複文推測群の上位群のみ最も該当語数が多い最多推測パターンが「誤答⇒誤答」と、最も該当語数が多い最多推測パターンの種類が異なること、以上の2点が明らかとなった。研究課題1および研究課題2の結果から、〈1〉複合動詞の意味推測においては前項動詞と後項動詞のもとになっている単独動詞自体が既知かどうか、〈2〉前項動詞と後項動詞のもとになっている単独動詞の第一義が複合動詞の中でどの程度残っているか、〈3〉「文脈量」よりも「文脈の有無」が複合動詞の意味推測に影響する、ということが言えるだろう。

本研究の今後の課題は、複合動詞の意味推測において学習者が実際に何を手がかりとしているかを、発話プロトコルやインタビュー等から検討することである。本研究では文脈内意味推測の複文条件群には、意味推測を促すと考えられる表現を含めた提示文を提示したものの、最多推測パターンは単文条件群と複文推測群の間に大きな違いはなかった。複合動詞の意味推測においては前項動詞と後項動詞のもとになっている単独動詞の知識をどの程度持っているかに影響されるが、V1+V2ストラテジーが通用しない複合動詞は数多く存在する。そのような複合動詞を学習者がどのように見極めているか、そして実際に何を

手がかりにしているのかを明らかにすることで、複合動詞のより効率的な学習や指導につながるヒントを得ることができるだろう。

注

1. 「日本語能力試験の3級と2級の間でやや2級よりのレベル」を目安にした。
2. SPOTは学習者の総合的な日本語能力を測定するテストの一つで、現在は『筑波日本語テスト集』からウェブ上で受験することが可能である。
3. 統語3の「聞き損ねる」は、「推測不可⇒誤答」「推測不可⇒正答」の該当者数が同数であった。そのため、「聞き損ねる」は「推測不可⇒誤答」「推測不可⇒正答」のそれぞれを「聞き損ねる」の最多推測パターンとして扱った。
4. 統語2の複文条件群の「読み切る」は、「誤答⇒正答」と「正答⇒正答」に該当した人数が同数であった。そのため、複文条件群の「読み切る」は「誤答⇒正答」と「正答⇒正答」のそれぞれを「読み切る」の最多推測パターンとして扱った。

参考文献

- 秋元美晴 (2002) 『日本語教師・分野別マスターシリーズ よくわかる語彙』アルク
ウラムバヤル, ツェツェグドラム (2011) 「モンゴルにおける日本語教育—高等教育機関における漢字教育に着目して—」『言語文化と日本語教育』41, 60-69.
- 何志明 (2010) 『現代日本語における複合動詞の組み合わせ—日本語教育の観点から—』笠間書院
- 郭恬・徳井厚子 (2010) 「中国人学習者の日本語複合動詞に関する意識・習得調査」『信州大学教育学部研究論集』2, 73-86.
- 格フレーム検索
<http://reed.kuee.kyoto-u.ac.jp/cf-search/> (2023年5月31日参照)
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房
- 影山太郎 (2013) 「語彙的複合動詞の新体系—その理論的・応用的意味合い—」影山太郎 (編) 『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて—』ひつじ書房, 3-46.
- 現代書き言葉均衡コーパス少納言
<https://shonagon.ninjal.ac.jp/> (2023年5月31日参照)
- 筑波日本語テスト集 | TTBJ
<https://ttbj.cegloc.tsukuba.ac.jp/index.html> (2023年5月31日参照)
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 永井鉄郎 (1996) 「日本語複合動詞の教育について」『日本語教育』88, 140-151.
- 長嶋善郎 (1997) 「複合動詞の構造」『日本語研究資料集第1期第13巻 語構成』213-231, ひつじ書房
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 姫野昌子 (2001) 「複合動詞の性質」『日本語学』20, 6-15.
- 姫野昌子 (2005) 「複合」『新版日本語教育事典』68-69, 大修館書店
- 平山允子 (2007) 「中国人日本語学習者による「V1+V2」型複合動詞の理解—Dual mechanism modelの応用可能性—」『言語科学論叢』11, 59-69.

- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法—改定版—』くろしお出版
- 松田文子（2000）「複合動詞の意味理解方略の実態と習得困難点」『言語文化と日本語教育』20, 52-65
- 森美子（2004）「【講演録】語意推測方略の個人差」『言語文化と日本語教育2004年11月増刊特集号 第二言語習得・教育の研究最前線—2004年版—』14-37.
- 森田良行（1978）「日本語の複合動詞について」『講座日本語教育』早稲田大学語学教育研究所, 69-86.
- 谷内美智子（2012）「後項動詞の種類からみた日本語学習者の統語的複合動詞の意味推測の特徴—文脈量と日本語習熟度の影響を中心に—」『言語文化と日本語教育』44, 1-10.
- 谷内美智子（2019）「日本語学習者の統語的複合動詞の意味推測の正確さ—記述式の場合—」『小出記念日本語教育研究会論文集』27, 5-20.
- 谷内美智子（2020）「日本語学習者による複合動詞の意味推測の特徴—多肢選択式における選択パターンの分析から—」『マテシス・ウニウェルサリス』22-1, 209-228.
- 谷内美智子（2022）「記述式における語彙的複合動詞の意味推測の正確さ—モンゴル語を母語とする日本語学習者の場合—」『マテシス・ウニウェルサリス』24-1, 177-191.
- 谷内美智子・小森和子（2009）「第二言語の未知語の意味推測における文脈の効果—語彙的複合動詞を対象に—」『日本語教育』142, 113-122.

資料：調査対象語ごとの各推測パターンに該当した人数
【統語1】

	意味推測条件			単文推測			構文推測				
	単独	⇒	文脈内	全体	上位	中位	下位	全体	上位	中位	下位
非対象語	推測 不可	⇒	推測不可	0	0	0	0	2	0	1	1
	推測 不可	⇒	正答	0	0	0	0	2	0	1	1
	正答	⇒	誤答	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	21	7	5	9	25	9	9	7
	正答	⇒	誤答	3	1	2	0	2	1	0	1
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	3	0	2	1	5	2	2	1
	正答	⇒	誤答	1	0	0	1	0	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	1	0	1	0
対象語	推測 不可	⇒	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
	推測 不可	⇒	誤答	1	0	1	0	0	0	0	1
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	17	4	6	7	27	11	8	8
	正答	⇒	誤答	2	0	1	1	2	0	1	1
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	1	0	0	1
	正答	⇒	正答	8	4	1	3	4	1	3	0
	正答	⇒	誤答	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	2	0	1	1
	正答	⇒	正答	0	0	0	0	1	0	0	1
推測不可	推測 不可	⇒	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
	推測 不可	⇒	誤答	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	24	8	7	9	29	12	9	8
	正答	⇒	誤答	2	0	2	0	2	0	2	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	1	0	0	1	1	0	0	1
	正答	⇒	誤答	1	0	0	1	1	0	1	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	2	0	1	1
	正答	⇒	正答	1	0	1	0	2	0	2	0
推測不可	推測 不可	⇒	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
	推測 不可	⇒	誤答	1	0	1	0	0	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	22	7	6	9	30	12	9	9
	正答	⇒	誤答	1	1	0	0	1	0	0	1
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	2	0	0	2	1	0	1	0
	正答	⇒	誤答	1	0	1	0	0	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	1	0	0	0	0	0	0	0
	対象語	推測 不可	⇒	正答	20	4	7	9	13	2	8
推測 不可		⇒	誤答	1	1	0	0	6	3	2	1

	意味推測条件			単文推測			構文推測				
	単独	⇒	文脈内	全体	上位	中位	下位	全体	上位	中位	下位
開き慣れる	推測 不可	⇒	推測不可	0	0	0	0	2	0	0	1
	推測 不可	⇒	正答	0	0	0	0	2	0	0	1
	正答	⇒	誤答	6	3	1	2	4	2	1	1
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	5	3	2	0	8	3	4	1
	正答	⇒	誤答	4	0	2	2	4	1	1	2
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	0	0	0	0	4	0	0	0
	正答	⇒	誤答	0	0	0	0	4	4	0	0
	正答	⇒	誤答	12	2	4	6	11	1	6	4
食べ慣れる	推測 不可	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	推測 不可	⇒	正答	2	1	1	0	1	0	1	0
	正答	⇒	誤答	3	0	1	2	7	3	4	0
	正答	⇒	推測不可	1	0	1	0	1	0	1	0
	正答	⇒	正答	8	4	2	2	14	4	5	5
	正答	⇒	誤答	0	0	0	0	2	2	0	0
	正答	⇒	推測不可	1	0	1	0	1	0	0	1
	正答	⇒	正答	1	0	1	0	4	2	1	1
	正答	⇒	誤答	12	3	2	7	6	1	1	4
	正答	⇒	推測不可	9	2	3	4	9	1	4	4
腹を慣れる	推測 不可	⇒	正答	5	1	2	2	2	1	1	0
	推測 不可	⇒	誤答	10	2	3	5	19	5	7	7
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	3	3	0	0	5	5	0	0
	正答	⇒	誤答	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	1	0	1	0	0	0	0	0
	正答	⇒	誤答	0	0	0	0	1	0	0	1
	正答	⇒	推測不可	1	0	0	1	2	0	0	2
	正答	⇒	正答	2	1	0	1	6	2	1	3
召慣れる	推測 不可	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	推測 不可	⇒	正答	3	2	1	0	5	3	1	1
	正答	⇒	誤答	1	0	1	0	1	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	正答	0	0	0	0	1	0	0	1
	正答	⇒	誤答	1	1	0	0	1	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	1	0	0	1	1	0	1	1
	正答	⇒	正答	0	0	1	0	2	0	2	0
	正答	⇒	誤答	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	⇒	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0

記述式の解答内容の分析からみた日本語の複合動詞の意味推測の特徴

推測 不可	推測不可	2	0	1	1	4	0	2	2
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	1	0	0	1	0	0	0	0
誤答	誤答	9	3	4	2	10	2	3	5
推測不可	推測不可	1	1	0	0	0	0	0	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
誤答	誤答	0	0	0	0	1	1	0	0
推測不可	推測不可	2	1	1	0	1	1	0	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	11	2	2	7	18	8	7	3
誤答	誤答	2	0	0	0	0	0	0	0
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	4	1	1	2	7	1	3	3
誤答	誤答	4	1	1	0	0	0	0	0
推測不可	推測不可	4	1	1	2	5	2	3	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	4	2	0	2	5	2	1	2
誤答	誤答	1	1	0	0	2	0	1	1
推測不可	推測不可	5	1	2	2	7	3	2	2
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	9	2	5	2	8	4	2	2
誤答	誤答	1	0	0	1	4	0	2	2
推測不可	推測不可	4	0	3	1	5	0	4	1
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	5	1	1	3	11	3	3	5
誤答	誤答	1	1	0	0	1	0	1	0
推測不可	推測不可	7	3	1	1	3	5	4	1
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	2	1	1	0	5	3	2	0
誤答	誤答	0	0	0	0	0	0	0	0
推測不可	推測不可	3	0	2	1	4	2	0	2
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	5	2	1	2	0	0	0	0
誤答	誤答	0	0	0	2	0	1	1	1
推測不可	推測不可	0	0	0	0	2	0	1	1
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	2	0	0	2	1	0	1	0
誤答	誤答	2	0	0	2	1	0	1	0
推測不可	推測不可	2	0	0	2	1	0	1	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	7	1	4	2	12	4	5	3
誤答	誤答	9	3	2	4	9	5	2	2
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	8	2	3	3	6	2	1	3
誤答	誤答	1	1	0	4	1	2	1	2
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
誤答	誤答	0	0	0	0	0	0	0	0
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	19	5	7	7	19	6	6	7
誤答	誤答	3	0	1	2	7	3	2	2
推測不可	推測不可	0	0	0	0	1	0	0	1
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	6	3	1	2	2	0	2	0
誤答	誤答	0	0	0	0	6	2	3	1

推測 不可	推測不可	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
誤答	誤答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
推測不可	推測不可	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	23	6	8	9	32	11	12	9		
誤答	誤答	2	1	1	0	2	1	1	0		
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	1	0	0	1	0	0	0	0		
誤答	誤答	1	0	0	1	0	0	0	0		
推測不可	推測不可	1	0	0	1	2	0	0	2		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	0	0	0	2	1	1	0	0		
誤答	誤答	2	0	0	2	1	1	0	0		
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	14	7	3	4	22	9	9	4		
誤答	誤答	2	1	1	0	3	0	1	2		
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	8	0	4	4	6	1	2	3		
誤答	誤答	1	0	1	0	1	1	0	0		
推測不可	推測不可	1	0	0	1	0	0	0	0		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	1	0	0	5	1	3	1			
誤答	誤答	0	0	0	0	0	0	0			
推測不可	推測不可	0	0	0	1	0	0	1			
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	19	4	7	8	23	8	6	9		
誤答	誤答	2	1	1	0	0	0	0	0		
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	3	2	1	0	6	3	3	0		
誤答	誤答	2	0	0	2	1	0	1	0		
推測不可	推測不可	1	0	0	1	0	0	0	0		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	2	1	0	0	0	0	0	0		
誤答	誤答	2	0	0	2	4	0	3	1		
推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	0	0	0	0	1	1	0	0		
誤答	誤答	1	1	0	0	1	1	0	0		
推測不可	推測不可	1	1	0	0	1	0	0	1		
⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
正答	正答	3	2	1	0	16	6	8	2		
誤答	誤答	20	4	8	8	14	5	2	7		

※横掛けは該当者数が多い推測パターンであることを示す。

【統語2】

	意味推測条件		単文推測群			複文推測群				
	単独	文脈内	全体	上位	中位	下位	全体	上位	中位	下位
読み取り	推測不可	推測不可	2	0	1	1	3	1	1	1
	正答	正答	0	0	0	0	4	0	3	1
	推測不可	推測不可	6	1	1	4	4	1	1	2
	正答	正答	0	0	0	0	1	0	0	1
書き取り	推測不可	推測不可	2	0	1	1	4	2	0	0
	正答	正答	1	1	0	0	1	4	2	1
	推測不可	推測不可	1	1	0	0	7	4	0	3
	正答	正答	15	4	6	5	6	1	3	2
書き取り	推測不可	推測不可	1	1	0	0	2	0	0	2
	正答	正答	1	0	1	1	1	0	0	1
	推測不可	推測不可	4	1	2	1	6	1	3	2
	正答	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
作り置き	推測不可	推測不可	3	0	1	1	3	2	1	0
	正答	正答	3	0	1	2	6	1	4	1
	推測不可	推測不可	4	2	0	1	5	3	1	1
	正答	正答	4	2	2	0	1	1	0	0
作り置き	推測不可	推測不可	12	3	2	7	12	3	4	5
	正答	正答	0	0	0	0	1	0	0	1
	推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	正答	5	0	2	3	5	1	3	1
作り置き	推測不可	推測不可	2	2	0	0	0	0	0	0
	正答	正答	2	2	0	0	7	5	2	0
	推測不可	推測不可	4	1	2	1	4	2	2	0
	正答	正答	1	1	0	0	1	0	0	1
読み取り	推測不可	推測不可	15	3	5	7	12	2	4	6
	正答	正答	0	0	0	0	2	1	0	1
	推測不可	推測不可	0	0	0	0	3	1	1	1
	正答	正答	0	0	0	0	2	0	1	1
読み取り	推測不可	推測不可	0	0	0	0	1	0	0	0
	正答	正答	0	0	0	0	1	1	0	0
	推測不可	推測不可	3	1	0	2	2	0	0	0
	正答	正答	3	3	0	2	3	0	2	0
読み取り	推測不可	推測不可	22	4	9	9	19	4	10	5
	正答	正答	1	1	0	0	3	0	1	2
	推測不可	推測不可	5	1	1	3	8	1	5	2
	正答	正答	1	1	0	0	0	0	0	0
読み取り	推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	正答	0	0	0	0	3	0	0	0
	推測不可	推測不可	0	0	0	0	3	0	0	0
	正答	正答	3	2	0	1	0	0	0	0
読み取り	推測不可	推測不可	17	3	7	7	19	7	6	6
	正答	正答	0	0	0	0	1	0	0	1
	推測不可	推測不可	3	2	0	1	4	0	0	0
	正答	正答	20	3	8	9	24	6	9	9
読み取り	推測不可	推測不可	1	1	0	0	2	0	1	0
	正答	正答	2	1	0	1	5	1	3	1
	推測不可	推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
	正答	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
読み取り	推測不可	推測不可	1	1	0	0	1	0	0	0
	正答	正答	1	0	0	1	4	2	1	1
	推測不可	推測不可	3	0	0	0	1	0	0	0
	正答	正答	21	4	9	8	26	9	9	8
読み取り	推測不可	推測不可	1	1	0	0	2	0	1	0
	正答	正答	1	0	1	0	1	0	1	0
	推測不可	推測不可	2	1	0	1	5	1	3	1
	正答	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
読み取り	推測不可	推測不可	1	1	0	0	1	0	0	0
	正答	正答	0	0	0	0	0	0	0	0
	推測不可	推測不可	0	0	0	0	1	1	0	0
	正答	正答	1	1	0	0	1	4	2	1
読み取り	推測不可	推測不可	1	1	0	0	1	0	0	1
	正答	正答	3	1	0	2	11	5	4	2
	推測不可	推測不可	2	2	0	0	1	0	1	0
	正答	正答	3	4	5	9	1	5	3	3

消えなかる	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	2	1	0	1	0	0	0	0	6	0	3	3
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	12	5	3	4	14	5	5	4				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	4	1	1	2	0	0	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	10	1	5	4	16	7	5	4				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	4	3	1	0	8	3	3	2				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	6	1	1	4	4	0	2	2				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	1	0	1	0	2	1	1	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	14	4	4	6	4	1	1	2				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	7	3	2	2	10	2	4	4				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	1	1	0	0	1	0	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	16	2	6	8	22	8	9	6				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	2	0	0	2				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	7	4	1	2	9	1	6	2				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	3	2	0	1	3	1	2	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	18	2	8	8	21	9	5	7				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	7	3	1	3	7	1	3	3				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	1	0	0	1				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	18	3	8	7	22	5	10	7				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	3	2	0	1	3	1	2	0				

消えなかる	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	3	1	0	2	5	1	2	2				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	15	4	5	6	14	3	6	5				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	1	1	0	0	2	2	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	8	2	4	2	7	3	2	2				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	2	0	1	1	2	0	0	2				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	11	1	2	8	8	1	5	2				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	1	1	0	0	0	0	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	4	3	1	0	5	2	1	2				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	1	1	0	0	3	1	1	1				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	7	2	3	2	6	0	3	3				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	2	2	0	0	2	0	1	1				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	1	0	0	1	3	1	2	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	2	0	1	1	4	1	0	3				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	5	3	1	1	7	4	2	1				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	3	0	2	1	2	1	1	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	3	0	0	0	0	0	0	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	12	3	4	5	11	3	2	6				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	2	0	1	1				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	2	1	1	0	2	1	1	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	5	1	3	3	0	2	1	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	2	1	1	0	5	3	2	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	5	2	1	2	3	2	0	1				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	0	0	0	0	1	1	0	0				
	推測 不可 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	2	0	1	1	2	1	1	0				
	正答 ⇒ 正答	推測不可 ⇒ 正答	12	3	4	5	18	4	6	8				

※横掛けは該当者数が最も多い推測パターンであることを示す。

【統語3および語彙の複合】

意味推測条件	単文推測群				複文推測群			
	全体	上位	中位	下位	全体	上位	中位	下位
単独 ⇒ 文脈内 推測不可 ⇒ 正答	4	3	0	1	5	1	1	3
⇒ 正答	0	0	0	0	3	2	0	1
⇒ 推測不可	17	3	7	7	18	6	8	4
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	2	1	1	0
⇒ 推測不可	3	2	2	3	8	2	3	3
⇒ 正答	0	0	0	0	2	2	0	0
⇒ 推測不可	9	2	1	6	15	2	6	7
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	1	1	0	0	2	1	0	1
⇒ 正答	0	0	0	0	2	1	1	0
⇒ 推測不可	15	3	7	5	12	6	4	2
⇒ 正答	2	2	0	0	2	0	0	2
⇒ 推測不可	0	0	0	0	1	0	0	1
⇒ 正答	14	5	3	6	20	7	9	4
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	1	0	1	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	1	0	0	1	1	0	0	1
⇒ 推測不可	0	0	0	0	2	1	1	0
⇒ 正答	11	1	6	4	9	4	2	3
⇒ 推測不可	3	2	0	1	1	0	0	1
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	10	3	3	4	13	3	6	4
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	2	1	0	1	2	0	0	2
⇒ 正答	0	0	0	0	2	2	0	0
⇒ 推測不可	13	2	6	5	18	7	7	4
⇒ 正答	2	1	0	1	1	1	3	2
⇒ 推測不可	0	0	0	0	1	1	0	0
⇒ 正答	19	4	6	9	20	5	9	6
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	7	3	3	1	9	5	1	3
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0

意味推測条件	単文推測群				複文推測群			
	全体	上位	中位	下位	全体	上位	中位	下位
単独 ⇒ 文脈内 推測不可 ⇒ 正答	3	2	0	1	4	1	1	2
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	16	3	5	8	22	9	8	5
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	1	1	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	0	0	0	0	1	1	0	0
⇒ 推測不可	7	1	4	2	8	2	2	4
⇒ 正答	2	1	1	0	3	0	1	2
⇒ 推測不可	7	2	4	1	9	1	4	4
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	3	1	0	2	1	0	1	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	16	4	4	8	21	10	6	5
⇒ 推測不可	2	0	0	2	3	0	3	0
⇒ 正答	2	0	1	1	4	0	1	3
⇒ 推測不可	6	0	2	4	5	2	1	2
⇒ 正答	1	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	2	2	0	0	4	2	2	0
⇒ 正答	1	0	0	0	1	1	0	0
⇒ 推測不可	2	1	0	0	1	1	0	0
⇒ 正答	1	0	1	0	4	2	1	1
⇒ 推測不可	13	5	4	4	16	5	5	5
⇒ 正答	2	1	0	1	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	1	4	0	3
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 正答	1	0	1	0	2	1	0	1
⇒ 推測不可	5	1	3	1	4	3	1	4
⇒ 正答	17	5	4	8	25	8	9	8
⇒ 推測不可	0	0	0	0	2	0	2	0
⇒ 正答	2	0	2	0	1	1	0	0
⇒ 推測不可	1	1	0	0	2	1	0	1
⇒ 正答	5	3	0	2	11	2	3	6
⇒ 推測不可	6	2	3	1	3	2	1	0
⇒ 正答	0	0	0	0	0	0	0	0
⇒ 推測不可	3	0	1	2	9	5	2	2
⇒ 正答	11	2	3	6	8	1	5	2

